

規則ニ違反シタル者拘留又

ハ科料ニ處スル議 共ニ

一 熊本縣士族藤瀬定建自治 卅一

國本立論ノ議

一 佐々木參議意見土地所有 卅二

名義ノ議

一 大藏卿松方正義建議贖造 卅三

紙幣取締規則ノ議 並内務卿

ノ意見書

扶桑體ニ就キ「正ルガ、ガ子」氏ノ意見書

明治廿五年二月十日

南郷茂光 譯

掌記

余日本ノ海軍ニ就キ甲鉄艦ヲ索觀ノ状況ニ於テ  
 惡劣ノヘキモノ有ルヲ實見セリ該艦ハ漸々衰  
 弱スヘキ状況ナリトノ報告ハ確實ナルモノトス  
 該艦ニ此ノ状況ヲ生ゼシムル原因ハ其計畫ノ誤ニ  
 非ス惟タ其材料ノ不良ナルニモ非ス金ク其價高ク  
 致セシモノハ電氣ノ劣為ニシテ即チ近接  
 ト銅ト相接近ヨリ生スルモノナルヘシ若シ其索  
 スルツラナルト

大 致 小 宮

銅ソ以テ艦底ヲ包シタル一二般ノ艦船ニ據テ  
較多泊セシムルハ或ハ損言ヲ起スモノナリ又ニ損言  
ヲ起セシモノハ或ハ黃銅製即チ砲銅製ノ暗車  
ナランモ知ルヘカラス 鉄製艦體ニシテ鉄甲ヲ以テヤル  
英國軍艦(軍艦ハルズ号ヲ除ク外)ハ木製艦體ノ  
甲鉄艦ハ皆ナシ察止セリ)ハ大抵皆ナ其艦底ヲ包  
マサルナリ其木ト白鉛ト若クハ銅ト以テ艦底ヲ  
包ミタル甲鉄艦ハ僅ニ「テソレヤ」号「ジャン」号  
スウィフト「エ」号「ツ」号「子」号「ノ」号「ル」号  
号及「オ」ダ「シ」ウ「ス」号ノ如ク教艦而トシテ皆ナ見レ

經驗ノ為メハ其ノ他ノ甲鉄艦ハ其鉄ノ艦底ヲ塗  
畫セル而トシテ之ヲ包ム「ナ」夫レ木ト全族ト  
ヲ以テ鉄ノ艦體ヲ包ム「ハ」費用夥多、之ヲ効力  
ナキ而トナラス 當キ時トシテ甚ク危險ナル場合  
アルハレ且ツ艦ノ排水量ヲ増加シ其速力ヲ減サ  
スルモノナリ  
然ル、佛國ノ甲鉄艦ハ多ク木ト銅ト以テ其艦底ヲ  
包ミ且ツ常ニ專ラ帆而トシテ駛航スヘキ標ニ  
其標價極重大 其速力亦モ少ナリ 佛國軍艦多  
クニ其艦底ヲ包ミ且ツ常ニ專ラ帆而トシテ駛航スヘキ標ニ

銅ソ以テ艦底ヲ包シタル一ニ般ノ艦船ニ接近シテ  
 較劣泊セシムル所ニ於テ復言ヲ起スモノナリ又ニ復言  
 ヲ起セシモノハ或ハ黄銅製即チ砲銅製ノ暗車  
 ナラシモ知ルヘカラス 鉄製艦體ニシテ鉄甲ヲ被セシ  
 英國軍艦(軍艦ハルズ)号ヲ除ク外カ本軍艦體ノ  
 甲鉄艦ハ皆ナク廢止セリ)ハ大抵皆ナク其艦底ヲ包  
 マサルナリ其本ト白鉛ト若クハ銅トシテ艦底ヲ  
 包ミタル甲鉄艦ハ僅ニ「テメレヤ」号「ジャン」ニ号  
 スウィフト「エ」号「ツリ」号「子ル」ニ号「ノル」ニ号  
 号又「スグ」シウス」号ノ如ク教艦而シニシテ皆ナク是レ

經驗ノ為メナリ)其他ノ甲鉄艦ハ其鉄ノ艦底ヲ包  
 蓋セル而シニシテ之ヲ包ム「ナ」夫レ本ト金族ト  
 マシテ鉄ノ艦體ヲ包ム「ハ」費用影多ク、之ヲ効力  
 ナキ而シナラス 嘗キ時トシテ甚ク危險ナル事  
 アルハレ且ツ艦ノ排水量ヲ增加シ其正(カ)ヲ減サ  
 スルモノナリ  
 然ル、佛國ノ甲鉄艦ハ多ク本ト銅トシテ其艦底ヲ  
 包ミ且ツ常ニ車ヲ加而シテ以テ駛航スヘキ様ニ  
 其標(枕)重ク、其標(底)モナリ 佛國軍艦  
 一ニ其艦底ヲ包ミシテ其標(枕)重ク、其標(底)モナリ  
 其所以ノモノハ佛國ノ外國ニ於テモ人其國外ニ於テ  
 其所有ノ干(燻)船渠

唯<sup>イギリス</sup>不<sup>イギリス</sup>根<sup>イギリス</sup>地<sup>イギリス</sup>ノ一船渠アル而已<sup>イギリス</sup>以<sup>イギリス</sup>ア伊國ノ艦船  
 其船底ヲ掃除シテ塗畫スル爲メニ之ヲ船渠ニ  
 入ル、一ナク敷月ノ久シキ之ヲ海上ニアラシメ  
 カルメナリ、實ニ斯ノ如キ方法ハ費用多クシテ  
 利ニ乏キモノトス、英國ノ艦隊ハ斯ノ如クノ装置ヲ  
 要セス故ニ木トシテ候トテ艦底ヲ塗シテシテ軍艦  
 ハ實ニ僅々タル敷艘而已、是レ皆ナ経験ノ爲メニ  
 知ラセルモノトス、其艦底ヲ塗シテ以テ二重ニ保護ヲ  
 カフル、一ツ石炭トシテ不利トスルハ英國海軍ノ計多  
 ノ経験ニヨルモノトス

若シ今扶桑艦ノ艦體ヲ木トシテ鉛トシテ之ヲ  
 ントニハ一<sup>ニ</sup>也<sup>ニ</sup>シ<sup>テ</sup>ノ<sup>一</sup>也<sup>ニ</sup>言<sup>フ</sup>、<sup>譯者所スルニ艦底ノ鉄ト其上ニ鉛ト白鉛ト</sup>  
 ナルヘシ、<sup>譯者所スルニ艦底ノ鉄ト白鉛トノ氣味ノ</sup>ヲ<sup>辭</sup>ク  
 一キ<sup>ニ</sup>係<sup>ニ</sup>最<sup>モ</sup>注意シ其皮木ト皮木トノ間ヲ以テ  
 之ムヘカラス即チ皮木ト皮木トノ隙間ヲ<sup>ニ</sup>填<sup>メ</sup>スヘカ  
 ラス、海水ヲシテ其色ニシル木ト白鉛トノ間ヲ自由  
 ニ通行セシメ、鉄ノ艦體ヲシテ常ニ海水ニテ濕  
 浸セシメ、鉄氣ノ動カツ白鉛ノ上ニ致シテ白  
 鉛ヲ腐蝕セシムヘキナリ、然レモ茲ニ甚ク慮スル  
 二條ノ所以アリ、曰ク第一ニ扶桑艦ハ其形ナリ

ニシテ所謂鈍圓ノ船ナリ假令其排水量百  
五十噸ヲ増ハセシムル中ニハ必ス蒸氣ニテノ速力  
ヲ減少スヘシ曰ク第二ニ其電氣ノ所為其音  
銅製ノ暗車ヨリ生スルモノトナシ一之ヲ改良定  
スルハ容易ナリ)ホト白鉛トテ以テ船體ソ  
包ケルハ一層ノ危険ヲ増ハスルニ至ラシ

(譯者曰ク船體ヲ包ケルハ一層ノ危険ヲ増ハスルト有テ其増ハスル  
所ハ其説明マサルカ故ニ行ノ原因ニテ危険ヲ増ハスルヲ其理  
田前氏)

差又木ト銅トナステ扶桑艦ヲ包マントニハ嚴  
密ニ注意シ隔絶ヲ設置セサルナラズ佛國軍

艦ニシヤンプレートニ号ノ士ニ付「ダイエバードロー」氏  
隔絶方法ヲ説明セリ此法ハ專ラ佛國英國  
魯國及其他ノ海國ニ於テ用ケル一ツノモノナリ  
蓋シ銅ヲ以テ扶桑艦ヲ包ムルハ一カ一談艦暗  
礁等ニ撞ルル有テ其艦底ヲ損傷シ僅ニ隔絶  
ツキヲ付ハ(譯者曰ク是レニ隔絶ヲ付トハ艦底ヲ包ヒシムル木  
銅トナリ破リ其木ニ腐爛ヲ生スルハ其銅ト其艦  
底ニ鉄ト氣肌相通)忽チ電氣ヲ起シ其動力機  
ニシテ鐵製ノ船體ヲ腐蝕セシムルニ至ルヘシ  
英國軍艦「コンス」号ハ隔絶銅製船體ノ上ツ  
銅ヲ以テ包ミタルモノ、一例ナリ其保護



譯者曰リ  
原文ノ意  
明カニ  
又

ニ至リテ蓋シ之ニ危流ノ質ヲ免レ難カレハシ  
人系ハ扶業艦ノ艦體ヲ包ムナク簡易輕便ナル  
方法ヲ用ヒ以テ六月之ヲ試驗セラレニ  
懷テ日ナ貴官ニ建言ス

先ツ第一ニ博士「ケール」氏ヲシテ艦底ノ修整  
セル部カヲ檢査セシメラレ而メ君ニ鐵織(鉄ノ)  
粉亂セルニ於テハ其鉄板ヲ刮淨リテ其化ニ  
置クハシ

第二ニ艦底ヲ掃淨シテ「ピーコック」種或ハ「ラ  
ヂニス」種或ハ「ミ」種或ハ「ホワイト」種ガニシテ

四 塗畫之而ノ其上ヲ「ライ・ウオツシ」種（ホワイトウツシ）

ヲ以テ二回塗畫スハシ

第三ニ其黃銅製ノ暗車ヲ除去シ鑄鉄製ノ

暗車ヲ以テ之ニ代フハシ

余ハ此事ニ點テ淺識ナリト雖モ其見レ「ク」

願テ上申ス

横濱

千禧十一年一月二十六日

エル、ゲ、ダ、子、一

大 文 書

不肖谷干城謹言

嗚呼一人ニ私シテ萬人ノ怨ヲ賣フ豈ニ政府ノ  
 得策ナランヤ抑モ長崎梅ヶ崎軍人軍属ノ墓ヲ  
 葬キ其ノ遺骨ヲ散乱セメ遂ニ外国人ノ手ニ委  
 スルニ至ルハ英國裁判所ノ申渡素ヨリ明ヲ十  
 レハ該地ノ人民耳アル者當時縣官ノ取扱不人  
 情ヲ聞知セサル者アランヤ悲哉人民實ニ卑屈  
 無氣カニシテ縣官ヲ恐ル、狼ノ如ク一人臂ヲ  
 揮テ其狼ニ當リ死者ノ為ニ怨ヲ訴ル能ハス雖  
 然人情ハ敢テ強弱ニ依リ異ラサレハ上ヲ怨ム